

# ソディックの 長期的戦略

With コロナ時代の新しいソディックの創造に向けて

新型コロナウイルス感染症は世界の経済活動に深刻な打撃を与え、人々の生活の在り方も大きく変わりました。With コロナ時代に持続的に成長するために、私たちは新しいソディックを創造していきます。

代表取締役社長

古川 健一

## 新型コロナウイルス対策と With コロナ時代の展望

全世界に拡大した新型コロナウイルス感染症（以下新型コロナ）は、人々の生活と企業の事業活動に深刻なダメージを与え、当社も多大な影響を受けました。そのなかで当社は社員をはじめステークホルダーの皆様の健康を最優先に感染拡大の防止に努めた事業運営を行いました。

政府の緊急事態宣言に先駆け、1月下旬には対策本部を設置し、2月に開催予定であった決算説明会や各種展示会への出展を見合わせました。また、社内では在宅勤務の徹底から、日常的な健康管理、柔軟な勤務シフト、自粛生活のストレス対策まで、社員のケアを十分に行い、感染リスク低減に向けた取り組みを行いました。

社会的には在宅勤務や時差出勤が可能な業界、困難な業界が浮き彫りになりましたが、当社では働き方改革の一環として以前からトライアル的に実施していたので、比較的

スムーズに運用できたと感じております。

また、新型コロナへの対応として経験した在宅勤務、業務の電子化・オンライン化によって、社員の仕事に対する価値観は変わりました。With コロナ時代に向けて、より健康的で効率の良い働き方をめざし、全社一丸となって新しいソディックの業務環境を創造していきたいと思っております。

また、この脅威に対し、社会の一員として何かできることはないかと考え、金属3Dプリンタ技術を応用し、フェイスシールド用フレーム「Face Tech」を開発。医療施設や学校法人などの公共機関だけでなく、社会を元気づけるうえで不可欠なスポーツ関連団体などにも寄贈しています。今後は事業やビジネスモデルという枠組みにとらわれることなく、CSRの観点からもWith コロナ時代における社会の持続的な成長に貢献したいと考えています。

▶ 金属3Dプリンタ技術を応用し、フェイスシールド用フレーム「Face Tech」を開発



◀ 「Face Tech」で作ったフェイスシールド

## 2年目を迎えた長期経営計画

### 『Next Stage 2026～Toward Further Growth～』

当社は、創業50周年を迎える2026年までの長期経営計画『Next Stage 2026～Toward Further Growth～』を策定しました。これは、自動車産業の変革、IoT・AI技術の進化、5Gの普及、新興国におけるものづくりの高度化をはじめ、当社を取り巻く国際的な環境の変化に柔軟に対応しながら、持続的な成長をめざすためのビジョンです。

初年度の2019年は、米中貿易摩擦の影響によって厳しいスタートとなり、2年目である今期は新型コロナによって厳しい事業環境が続いております。また、今後は世界的な景気弱含みの継続と地政学的なリスクが高まることも

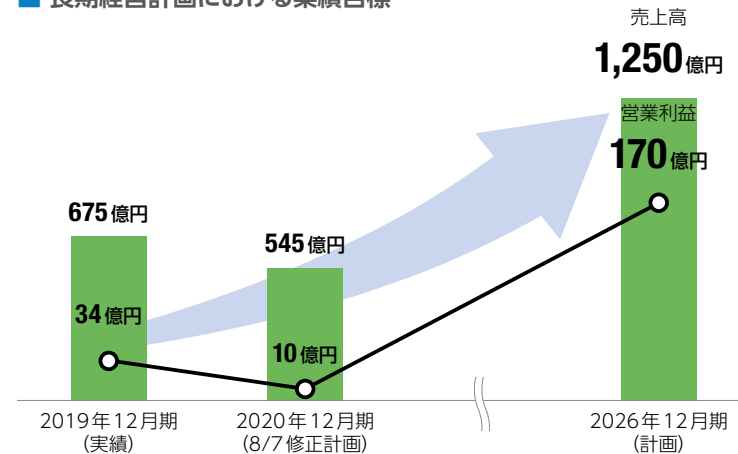
予想されるなかで事業運営を行っていくこととなります。このような事業環境を踏まえ、今期は、業績予想を売上高545億円、営業利益10億円で修正しております。

その一方で、近年の著しい技術の進歩に伴い、どの産業においてもさらなる高精度化、微細化、複雑化、環境負荷の低減が求められており、中長期的には当社の強みが活きる市場が拡大する時代になりつつあるともいえます。また、食品機械事業においてもアジアを中心とした海外市場や惣菜、野菜、パン等の新分野を開拓してまいります。

(単位:億円)

	2020年12月期通期業績予想		増減
	期初計画	修正計画	
売上高	678	545	△133
営業利益	38	10	△28
経常利益	38	10	△28
当期純利益	31	5	△26

#### ■ 長期経営計画における業績目標



## 会社の持続的な成長に向けた事業ポートフォリオの在り方と Next Stage を担う人材の育成

ソディックの強みは、コア事業の優位性・一貫体制によるものづくり・グローバルな展開力の3つですが、工作機械や産業機械は景気変動の影響を受けやすいため、リスクを分散させ、グループ全体の収益性・安定性・成長性を確保するポートフォリオ経営に取り組んできました。その一つが食品機械事業です。製麺機や無菌包装米飯製造装置は景気変動に関係なく安定した需要があり、放電加工機、射出成形機に次ぐ第3の柱に育てるために資本を投下。製造ライン全体をトータルで手掛けているという強みを発揮し、最適なソリューションをご提案しています。今後、中国やアジア市場での需要拡大に対応すべく、中国・アモイ工場での生産など生産能力を拡充し、2026年までに売上高150億円を超えるビジネスにしたいと考えています。

一方、ESG関連では、柔軟な対応力と先見性、チャレンジ精神を併せ持つ人材を育成するための仕組みづくりの一環として今年度より次代の経営幹部候補をめざす『グローバル総合職』を導入。管理職として活躍するマネジメント職と専門性を追求するエキスパート職の選択も可能になりました。また、有給休暇、育児・介護休暇、在宅勤務やRPAの導入等の働き方改革に併せ、人事評価制度も刷新。年齢・性別・国籍に関係なく一人ひとりが「創造」「実行」「苦労・克服」によって発揮した能力を正當に評価する体制を整えました。

先行きが不透明な時代だからこそ、こうした取り組みによって組織と個人の力を伸ばし、持続的な成長につなげていきたいと思っています。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

#### ■ 持続的な成長に向けてめざす事業ポートフォリオ

